

## ご挨拶

1991年、前年から導入された緩和ケア病棟入院料の施設基準を満たして、まだ誕生間もないホスピス緩和ケア病棟6施設が集い、協会の前身である「全国ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会」が発足しました。そして16年目の2007年10月、当協会はNPO法人として新しい歴史の扉を開きました。

この間、ホスピス緩和ケア領域には様々な変化がありました。1996年には日本緩和医療学会が、また2000年には日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団が設立されるなど、ホスピス緩和ケアをよりよいものにするための関係者の努力が、多様な形で展開されてきました。わが国のホスピス緩和ケア病棟も現在では180施設を超え、その殆どが当協会の会員として活動しています。

また制度としては2002年には緩和ケアチームの活動の足掛かりとなる緩和ケア診療加算が設けられ、2006年には在宅における緩和ケアをも前提にした在宅療養支援診療所、同時にデイホスピスとも言える療養通所介護なども整備されました。

そのような流れの中で、2004年7月、全国ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会はホスピス緩和ケアが、病棟のみならず、様々な療養の場においても提供されることの重要性を鑑み、その名称から病棟を外し、「日本ホスピス緩和ケア協会」と改称しました。

そして、当協会はホスピス緩和ケアのいっそうの広がりを目指し、「生命を脅かす疾患に直面する患者とその家族のQOL（人生と生活の質）を向上させるために、ホスピス緩和ケアの普及と啓発およびサービスの質の確保と向上に関する事業を行い、もって、ホスピス緩和ケア事業の健全な発展を図り、国民の保健・医療・福祉に寄与すること」を目的としたNPO法人として活動することになりました。

さて当協会がめざすホスピス緩和ケアは、その対象をがんに限らないことは先述した通りですが、当面の大きな課題である、がん対策としてのホスピス緩和ケアにつきましては、以下の3課題の実現を目指します。

- 1) がん診療連携拠点病院を中心に、ホスピス・緩和ケア病棟と緩和ケアチーム、在宅療養支援診療所等との地域連携のためのネットワークを作ること
- 2) ホスピス緩和ケアにおける質の保証をすること
- 3) ホスピス緩和ケアに対する国民の理解を深め、地域の医療従事者への教育研修の支援体制を作ること

日本にホスピスが紹介されて30年余、今、わが国のホスピス緩和ケアは大きな飛躍の時を迎えています。さらなる発展に向けて、国内外の関連団体と協力しながら、ケアを必要とする人々とともに歩みを進めていきたいと思っています。

皆様のご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 日本ホスピス緩和ケア協会  
理事長 山崎 章郎